



本市の目指す人づくりについて

33号発行についてのご挨拶

「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。

しかし、私が思うには地方都市の創生とは人づくりであり「ひと・まち・しごと」ではないかと。

「ふるさと納税」が豪華な返礼品と相まって加熱しています。

豊橋市はふるさと納税を使った知名度を上げるプロモーションや、税収のバランスを考えた積極策に出るべきではないでしょうか？

そこで3期目初の一般質問に選んだのは、選挙を通して頂いた豊橋のまちを元気にする様々なご意見やアイデアの中から、

「本市の目指す人づくり」と、

「本市の目指すふるさと納税」について議論しました。



留まることのない経済のグローバル化、世の中全体が縮小していく人口減少社会、私たちのまちも、まさに今、社会経済の大きな構造変化の最中にあります。

そこで一問目は、まちづくりは人づくりという観点から議論しました。

Q 「本市の目指すひとづくり」について

■本市の小中学校は、平成17年、全国に先駆けて「英語教育推進特区」の指定を受けたように、小中学校における国際教育をこれまで積極的に進めてきています。

■本市の時習館高校は文部科学省から「スーパーグローバル・ハイスクール」の指定を受けました。

また、豊橋東高校は平成19年度に国際理解コースを設け、国際教育に専門的に取り組んでいます。

■本市の豊橋技術科学大学は、これまでの実績を基に日本のグローバル化を牽引する大学として平成26年度よりスーパーグローバル大学のひとつに採択されました。

■このように、わがまち豊橋は、小・中・高・大を通し、グローバル教育を受けられる環境がかなり整ったまちだと言えます。こうした強みを活かし世界を舞台に活躍する豊橋っ子を次々と輩出できたら、市民も誇りに思い、まちも元気になると思います。

1回目に、

(1)本市の目指す真のグローバル教育について

(ア) 教育的効果の高い国際教育への認識と対応について

(イ) グローバル化した社会に適応する「独立自尊」「共生他尊」への認識と対応について

(2)本市の目指す教育環境と人材育成について

(ア) 人口減少時代における学校のあり方について

(イ) 高校生・大学生と企業が連携した人材育成について

教育長 教育部長 産業部長と議論を重ね、(1)と(2)をまとめ2回目として

「まちを支える人づくりについて」の佐原市長の考えについて

A 豊橋市 佐原市長 まちの元気や日々の安心・安全な生活を支えているのは、そのまちに暮らす人たちであり、今後のまちづくりにおいては、次代を担う子どもの教育はもとより産業、文化、福祉などあらゆる分野において、人づくりが何よりも基礎であり、大切なものだと考えています。

現在策定を進めている第5次総合計画の後期基本計画においても、人づくりを様々な分野に横串を刺す重要な政策課題として明確に位置付け、これまで以上に力を注いで参りたいと考えています。

例えば産業分野では、現場を支えていく人材のスキルアップや、次代を切り開くイノベーション人材、農業の技術を学びICTを取り入れた最先端農業をやるような人材、また、福祉分野や、スポーツ、芸術文化など、様々な部分での人づくりを進めていきたいと考えています。さらに、「くすのき特別支援学校」の取り組みや、「ほいつぶ」の発達障害の子たちを支える仕組みなど、人それぞれが持っている力で、夢の実現ができるような仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。

こうして育った人材が、地域に定着し、また人によっては世界に羽ばたいて活躍していきような持続的な発展ができる地域づくりをしていきたいと考えています。



伊藤とくやのおもい

佐原市長から第5次総合計画の後期基本計画では、人づくり・人材育成についてさまざまな分野に横串をさす重要な政策課題に取り組んでいきたいとの明確なお考えを伺いました。また、市長は世界で活躍する本市出身のエンジニアのお話をされましたが、本市で育った人材が世界に羽ばたく人材となること、またその人材ができることなら地域に定着し活躍することで、持続的に発展していきまちづくりに繋がれば本市の将来に明るい見通しを持つことができます。

人口減少時代は、地方が「夢」を持ちにくい時代とも言えますが、市長には「夢」を語り夢の実現へ向けての工程を示し、ぜひ「夢が実現する」地方の創生を実現させていただきたいと思っています。

本市の目指す

ふるさと納税について

■ふるさと納税制度は安倍内閣の地方創生の掛け声もあり、本年 4 月からふるさと納税制度の拡大として改正されました。大きく変更となった点は 2 点。

変更点 1 特例控除額の上限が個人住民税所得割額の約 1 割から約 2 割に拡充

変更点 2 もともと確定申告不要な給与所得者等の場合、寄附先が 5 団体までであれば確定申告不要「ワンストップ特例」

■都市部から地方への税金の流出は、現段階では大きな影響は生じていないが、今後金額が大きくなっていくと、福祉、教育等の公共サービスに影響が生じる可能性がある。

■一方、住民税の約 2 割が控除の対象となり、国民ひとりひとりが自由に寄附できる、つまり税金の使い道を選択できる制度としても注目されている。

■例えば名古屋市は、寄附を活用したまちづくりに 15 種類の寄附金モデルメニューを作成しており、名古屋城本丸御殿寄附金を目玉に掲げている。

■また、私の目を引いたのは、広島県神石高原町(じんせきこうげんちょう)の、犬の殺処分ゼロを目指す団体を支援する取組みへの補助という使い道です。

■あらためて本市は、ふるさと納税制度で寄附を集めて何に使うのか、その目的を定める必要があり、この部分が重要であると思います。

Q(2) 過熱するふるさと納税への認識と本市歳入に対する影響を踏まえた対応について

A 豊橋市 財務部長 ふるさと納税のさらなる活用を検討する時期を迎えているが、返礼品合戦に参加するといった形ではない方法で取組みたい。寄附金制度としての相応しさや本市の特長を活かす視点から、シティプロモーションや産業プロモーションの手段としての工夫に加え、本市の施策を分かりやすく紹介した上で寄附金の使途事業の明確化を図るなど、寄附者の方々の共感を高められる取組みとするよう様々な角度からのアプローチが重要である。

伊藤とくやの意見

ふるさと納税寄附金額と寄付金控除適用額の収支バランスは寄附額よりも控除額が上回る傾向が 9 月の決算では示されると思うが、この課題についてはしっかりと対応していただきたい。

そのための方向は二通りある。「ふるさと納税の目的」「返礼品への工夫」である。豊橋らしい魅力ある返礼品のあり方について考えてみたいと思う。

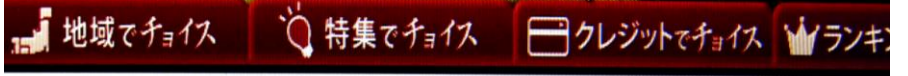
■返礼品から夢を膨らませるとすれば

- ★名古屋城 本丸御殿 本丸再建 → 吉田城 くろがね櫓再建
- ★葛飾区の北斎美術館 → 東松照明写真美術館
- ★里帰り出産 → 子どものUターン、若者人口増
- ★愛犬家の願い → 犬の殺処分ゼロ

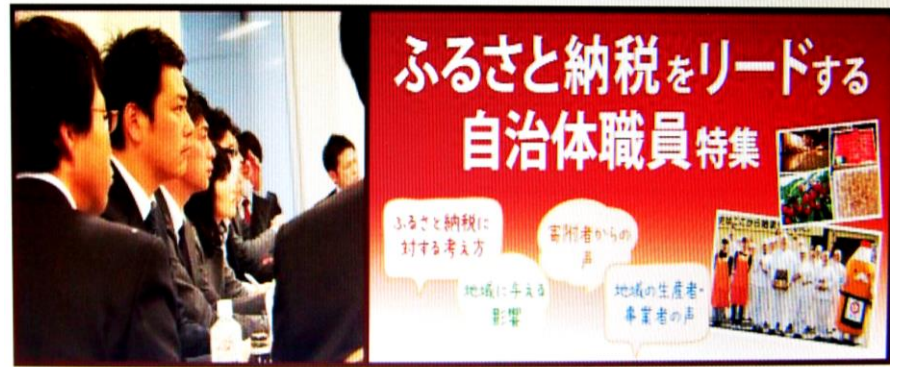
など、今までなされなかった市民の夢をかなえることこそ必要ではないか。

■医療福祉プロモーションとして「PET 検診」など、高額な医療を返礼品とする自治体があるが、本市には優れた PET 検診を提供する病院が複数ある。

あとがき 今回は本市の目指す人づくりについて、まちを支える人づくりとはなにか？本市が本格的な人口減少時代を迎えると言われているなかで、人口の減少を甘んじて受けるのではなく、伸び行くまちづくりとは何か。「グローバル教育」「教育環境」「人材育成」等、本市の強みを活かした小中高大から企業までの連携といった視点について全体最適で議論しました。また「ふるさと納税」を利用して本市の魅力発信することで、本市のファンを、定住人口を増やすといった本市の攻めの「まち・ひと・しごと総合戦略」の一端について議論しました。



リードする先進自治体職員特集



今年1月30日(金)第2回ふるさと納税先進自治体会議が都内で行われました。ふるさと納税で先進的な取り組みをしている自治体職員の方をお呼びし、地域でおこなっていることの発表や意見交換などを行いました。各自治体ならではの特色を活かし地域資源を発掘し、それをPRすることで多くの変化が起きています。ふるさと納税をきっかけとし、持続的に地域に活力を産むために、毎日遅くまで頑張る職員の方たちをご紹介します。

Q(2) 2回目

本市の産業プロモーション、シティプロモーションを推進する本市の目指す、プロモーションの観点からのふるさと納税の活用について

A 豊橋市 財務部長 現在見られる全国的な返礼品合戦のような状況は、寄附金本来の趣旨から外れたものであると考えているが、プロモーションの観点からは、ふるさと納税制度を活用した豊橋の魅力発信は有効な手段の一つである。豊橋市民や出身者はもとより、そうでない多くの方々にも関心を持って本市を選んでいただけるPRをしていくことが重要であると考えている。

そのためには、高額な特産品を用意するのではなく、例えば、寄附者の方々に手筒花火の放揚やプラットでの公演などを見に来ていただけるような仕掛けを打つなど、様々な返礼方法について検討するとともに、時期や媒体などを考慮し、工夫あるPRを行うことが必要である。

また、寄附金の使途・目的についても、豊橋市の何をどのように応援して欲しいのか十分に理解していただき、寄附による成果がどのように上げられたかお知らせすることで、プロモーション効果も高まるものと考えている。

伊藤とくやのおもい

ふるさと納税については積極的に検討し、ぜひとも本市を選んでいただける様な工夫あるPRをお願いしたい。

返礼品として本市の魅力資源を見に来ていただけるようなお考えを伺いましたが、あらためて本市を日本中に知らしめる企画を立て、「ふるさとチョイス」といったメジャーな媒体を使い、バナー広告がトップに出るくらいの仕掛けをお考えいただきたい。

是非ともふるさと寄附に選ばれるまち豊橋を実現させていただきたい。😊😊😊

TOPICS 国の「まち・ひと・しごと」創生法制定を受け、本市は7月「豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を示した。その目指すべき将来の方向の一番目に「ひと・仕事・学びの好循環を創る」を掲げ、やりがいのある仕事に就き自己実現を目指す、そのために必要なことを学び自らの可能性を広げる、このような人々の主体的な営みが地域に新展開をもたらし外から人を集める取り組みを進めるとしている。大いに期待したい。

3期目初 市政報告会のお知らせ

日付 平成 27 年 8 月 27 日(木)
 時間 18 時 30 分より
 会場 カリオンビル(松葉町 2 丁目)
 お気軽にお越しください!



発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-68
 FAX : 0532-56-5521
 TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
 携帯 : 090-3855-9696